

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和3年度 第3回社会教育委員会議
開 催 日 時	令和4年1月14日(金) 午後 7時00分から 午後 8時45分まで
開 催 場 所	吉川市役所 3階304・305会議室
出席委員(者)氏名	小山悟委員、峯健二委員、西澤利子委員、郭育子委員、 福田稔之委員、中山宏司委員、末吉里絵委員、強矢奈保子委員、 能登克己委員、鈴木博委員、高田明充委員、富田泰行委員、 池畑沙綾香委員
欠席委員(者)氏名	米田清美委員
担当課職員職氏名	生涯学習課 課長：岩上勉 副主幹：山崎功二 主査：山崎弘輝 主任：岡庭直樹 中央公民館 館長：森谷浩幸
会議次第と会議の公開又は非公開の別	《会議次第》 1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 令和4年度社会教育(生涯学習)事業計画について (2) 成人式の名称について (3) 文化芸術に関する条例の制定について【答申】 4 その他 5 閉会 《公開又は非公開の別》 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	次第 令和3年度第2回社会教育委員会議資料 ・令和4年度社会教育(生涯学習)事業計画について ・成人式アンケートの結果について ・答申書(案)

	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術に関する条例のパブリック・コメント ・吉川市文化芸術基本条例
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	郭育子委員、富田泰行委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
高田委員長 事務局 高田委員長 峯委員 事務局 峯委員 事務局 峯委員 福田委員 事務局 福田委員 高田委員長	<p>議事</p> <p>(1) 令和4年度社会教育(生涯学習)事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を求める。 ・資料に基づき説明。 ・意見、質問はあるか。 ・「吉川市美術展覧会」は公募展ということで良いか。 ・公募展である。内容については十分検討しながら進めていく。 ・募集要項は夏ごろまでに公表できそうか。 ・可能な限り春頃にはと考えているが、課題も多い。遅くとも夏までには公表したいと思っている。なお、開催時期は2月ごろを見込んでいる。 ・私は絵をやっており、ぜひ参加したいと考えている。公募展という形になると、サークルや公民館で色々な人が集まって、というような形ではなく、絵に大変打ち込んでいる人が多く応募してくる。そういう人たちの多くは、できれば大作を出品したいと考えるため、企画するのではあればキャンバスの大きさを限定し、県展では20号から50号だが、そのくらいの範囲ならば力作が集まると思う。それとこういうものになると、準備してモチーフを決めて描くとなると、人によっては半年以上かかる人もいるので、募集要項の公表を早めをお願いしたいと思う。 ・文化財愛護活動の文化財展は、今年と同じく市役所でと説明があったが、平日開催ということか。 ・平日開催で検討している。 ・平日のみだと、面白そうだと思っても参加が難しい、土日開催の検討をお願いしたい。 ・ぜひ検討いただきたい。他にあるか。

池畑委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域寺子屋事業について、これまで夏休み等長期休暇期間に開催していたものを、土日祝日にも広げた経緯を教えてください。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、夏休み等長期休暇期間に限ってしまうと開催を見込むことが困難であり、実行委員の方々からの要望もあり、土日祝日も開催できるように変更したものである。
池畑委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員の要望もあつてのことということで、理解した。
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば生涯学習担当では21の事業があり、他の方も予算はこれからということだが、全体でどれくらいの予算なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・大変申し訳ないが、手元に資料がないためお答えできかねる。
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年は中止された事業が多かったと思う。参考までに、実施できた事業はいくつで、去年の予算はどれくらいなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・例として、市民文化祭のように交付金を交付するものは、実行委員会に30数万円交付するという方法だが、小学生俳句探検団ですと、吉川市の俳句協会の方への報償費と、俳句を書き記す代金だとか、事業によって予算の差が出てくる。各担当から予算が決まっていないという説明をさせていただいたが、3月議会に当初予算案を提出して、議決されてからはじめて予算を執行することができ、事業が担保できるということ。金額面というより、担保が取れていないため、この事業計画案は生涯学習課として実施していきたい事業案ですと捉えていただければ。来年度1回目の会議には当初予算が確定しているため、事業報告と合わせて予算についてご説明できると思う。
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・予算によってはできない、という事業もあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果も重要なため、財政部門に、我々職員がどううまく説明できるかという話になってくる。
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の熱意によるということで理解する。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトカレンダーやなまずの日のイベントは商工課が主となっていると思うが、もう少し教育委員会が関わっても良いのでは、という思いがある。例えば来年度、再来年度、どこかひっかけができれば面白い形になると思うので提案させてもらう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・なまずの日の「なまずのぼり」は、文化芸術を総合政策として展開した施策の一つである。なまずのぼりを子どもたちに塗ってもらい飾ろうと。なまずのぼりは一例なので、今後の事業展開にあたり、教育委員会だけではなく、市の総合政策として各事業に浸透していけたらと思う。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室は課題が多いと思うが、今後の見通し、増やす予定はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現状で予定はしておらず、このコロナ禍で三輪野江小学校の実施もかな

	<p>り苦しい状況である。支援員の確保は当市に限らず他自治体でも課題となっている。当面は三輪野江小学校の放課後子ども教室を充実させていきたいと考えている。</p>
<p>高田委員長 事務局</p>	<p>(2) 成人式の名称について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を求める。 ・資料に基づき説明。 ・アンケート結果を踏まえ、事務局では成人式という名称を継続で良いのでは考えている。委員の皆様のご意見を頂戴したい。
<p>高田委員長 中山委員 能登委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見、質問はあるか。 ・当人たちがそのような意見ならば、成人式で良いのではないかと思う。 ・私も成人式で良いのではと思うが、アンケートの際に、令和4年4月1日より18歳が成年年齢となる法律が施行されるという説明があり、それでもなお、成人式という名称が良いと若者が選んだのか確認したい。
<p>事務局 能登委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような内容でアンケートを実施している。 ・了承した。
<p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料のアンケートに関して2点ほど質問がある。1点目として、このアンケートは毎年行うものなのか。2点目は、全国的な傾向はどのようになっているのか、教えていただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの継続実施は現時点では検討していない。今回のアンケート結果と社会教育委員の皆さんのご意見も踏まえて決定していきたいと考えている。ただし、今後成人式の考え方が変わることもあり得るため、そこで再度アンケートを実施することは考えられる。全国的な名称の傾向についてはまだ不確定で、前回委員の皆様にお配りした資料でも「二十歳を祝う会」「二十歳の集い」が近隣団体では見られそうだとご説明させていただき、現時点で進展は見られない。
<p>池畑委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現成人向けの回答は多いが、しっかりと考えて回答しているのかと疑問は残る。高校生向けアンケートは、母数が少ないように感じる。もう少し成人式に関わる世代に聞いて欲しかった。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川美南高校では校長先生に依頼させていただき、成人式の名称のアンケートをお願いしますとチラシを配布させていただいた。スマートフォンの校内への持ち込みが禁止されていることから、自宅ですぐできるようQRコードを読み込んで、30秒程度で終わるよう回答しやすい形で実施させてもらったが、結果、10件であった。一方で、事務局では「成人式」の回答が多いと想像しておらず「二十歳の集い」などが多くなると考えていたため、名称の変更にこだわっていたのは行政だけだったと

富田委員	<p>感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回社会教育委員会議でも述べさせていただいたが、名称に「式」を残すことは譲れないという個人的な思いもあり、アンケート結果については、我が意を得たりという結果と感じている。
西澤委員 小山委員	<ul style="list-style-type: none"> 私はこのデータを信じたいと思う。 何かを変える時に、話し合いや対案が出ないという時には、今までの踏襲に流れやすいと思う。個人にアンケートをとると、一人で対案を作るのは難しく、当然成人式になると思う。もっと話し合いを行い、合意形成をして、なるほどその案ならと意見が集まった結果、対案が出るのであれば安心して別の名称に投票することもあると思う。ただし、成人式の名称についてそこまで議論する必要があるのかと考えると、名称を変えないということでも良いのではないかなと思う。質問だが、アンケートはこの6択で実施したのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> この6択でアンケートを実施し、吉川美南高校に関してはあえて「成人式」の選択肢を一番下にした。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> 私の長男が来年成人式を迎えるため少し話をしてみたが、スーツを買えば「成人式にも着られるね」とか「お母さんは成人式ここでやったんだ」とか聞いていることもあってか、「二十歳を祝う会」などの名称について聞いても「成人式で良いのでは」という話になり、成人式という名称が子どもながらも聞きなれており、違和感が一番ないのではと感じる。
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> そもそも名前を変えなければいけないのか、ということをもとに考えると、最初から考えると思う。
郭委員	<ul style="list-style-type: none"> 成人式実行委員の方たちが、こんな会にしたいという実行委員のカラーがあると思う。私の子どもは18歳なのだが、今回の法改正で色々なものが変わり、自己責任を伴うものが早くなるというのは、本人の成人式という自覚において、まだ分かっていないところがあると感じる。ニュースを見ていた際に、18歳で成人式を行った他自治体の市長が、18歳で成人になるのだから、式に参加した人は自覚をもってもらいたいと言っていた。私はどちらかということ、子どもが受験の最中なので、二十歳で挙行した方が良いと思うが、そういう意図があったのかと。実行委員の方々が自覚を持って作っていく成人式ということで、実行委員の方々から意見を聞きながら名称を変えるということはできるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 毎年変えるというのは、現実的には非常に難しいと考える。参加者募集の際に都度変わってしまうと、今年の成人式は何という名称なのか、と混乱してしまう可能性がある。一方で、ずっと成人式という名称が続くとは考えておらず、世の中の流れが変わり「成人式」という名称に違和

中山委員	<p>感が出てくることも考えられるため、他自治体の状況や実際に成人式を迎える方たちの考え方を聞きながら、時期を見て変更する必要性もあると事務局でも考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自覚を持ってもらうつもりで、時代と共に変わるとは思うが、当分の間は成人式の後ろに副題をつけてみてはどうか。本来は18歳で何らかの式をやっていただいて、世の中に関わるんだという自覚を持ってもらいたいなどと思う。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私も先ほど言ったのはその部分で、今回、名称を決めてそれで終わりになってしまう、今後、再検討するという機会はなくなってしまうのか。この場でこうだという結論が、未来永劫決まってしまうことは、少し違和感がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成人式の名称を決めていただきたい理由に、来年の成人式実行委員の募集が始まってしまうことがある。成人式の実行委員募集を広報誌に掲載する場合など、同じ名称が毎年続く方が、親しみやすいかなと思う。ただ、皆さんのご意見のとおり、時代によって考え方や感じ方は変わってくるので、その都度、検討が必要とも思っている。今回は民法改正のタイミングだったというところで、「二十歳の集い」など行政が考えた名称がある中で、どれが良いのだろうとアンケートをとるなど、ご意見を伺っているところ。実は、成人式の実施時期については、2年前にやはり社会教育委員会議で諮った経緯がある。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ その時の社会教育委員会議で、18歳は受験などで、出席できる人が少なくなるかもしれない、だから吉川は二十歳にするということで決定していたかと思う。現状「成人式」という名称が社会風潮かと思うため、二十歳で「成人式」が良いと思う。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私もしばらくは「成人式」が良いと思う。このアンケート結果を見ても、この先どのように若者の意見が変わってくるかは分からないが、とりあえずは成人式という名称で様子を見て、実行委員会の中で名称について話が出た時に、再度、諮ればよいこと。当面はこのままで良いのではと思う。
高田委員長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さんのご賛同が得られれば、名称は「成人式」のまま変更しないということで良いか。ただし、先々時代も変わっていく中で、先ほど中山委員も言われたように、副題を付けるとか、その時の若者たちの考え方を実行委員会が検討していくというのも一つの方法だと思うので、そういった名称に関連する事項に関しては、事務局にお任せするという形でよろしいか。 ・ (全員賛成)

<p>高田委員長 事務局</p>	<p>(3) 文化芸術に関する条例の制定について【答申】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を求める。 ・資料に基づき説明。
<p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議で「吉川らしさ」についてご意見をいただいたため、前文を設けることで表現してみた。まずは前文の有無についてご意見伺いたい。
<p>福田委員 峯委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明があったが、まずは前文の有無及び内容について、ご意見伺いたい。
<p>福田委員 峯委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前文があった方が良いと思う。条例を読んで欲しいということが感じられる。ただし、常体、敬体が混在しているため統一した方が良いと思う。
<p>中山委員 高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の市や県の文化芸術条例を見てみると、ほとんどの団体が前文を設けている。市の独自性を出すとなると、内容に独自性を持たせることは難しいと思う。前文を掲げることで吉川の状況を踏まえることができるため、良いと思う。前文に賛成である。
<p>中山委員 高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしいと思う。 ・私の立場で、あった方が良いと思う。条例本文に導くために、その気にさせるというか、見た人が入りやすいと思う。
<p>鈴木委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の話し合いの中で、最も意見として多かった「吉川らしさ」という言葉、この前文の表現は、まさに「吉川らしさ」であり他の市では書けない。こういう文化、歴史があるということを踏まえておくことは大事であると思う。
<p>西澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的にこの条例は嬉しく思う。文化祭は昭和51年から始まり、私はその昭和51年から文化祭に出品しているが、それから45年、出品しなかったのは、吉川を離れていた3年だけ。間違いなく昭和51年から始まっており、ずっと続いている。そのことが表現されていて非常に嬉しい。
<p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の社会教育委員会で話し合った部分が、こういう形で現れるというのは、やりがいを感じる。
<p>富田委員 西澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この14行に凝縮された思いが感じられる。
<p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本当は48年に始まった。それで3年間積み重ねて、書とお花だけだったが、その3年間で認められて、初めて吉川町民文化祭、町民をつけてくれたのが、昭和51年。そこから文化祭に携わっている身としては嬉しく思う。
<p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には全部賛成だが、一つ方法がないかと思ったのが、子ども達に対する教育大綱、それを盛り込むことはできないかと。要するに、子どもたちが文化芸術に対して志を持つとか、そういったことが何らかの形

鈴木委員	<p>で入って欲しかったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文言を入れない方が良いと思う。文言には入れないが、地域の歴史・風土、これをどう子どもたちに伝えていくのかということはずごく大事だと思う。先ほど、文化財保護担当から話があったが、歴史編さん事業や文化財めぐり、この辺を特に厚くしていただいて、吉川はすごいと子どもたちに意識してもらおう。市全体に関わる大きな話ではなくとも、私は川藤に住んでいるが、例えば、川藤にはこういう人がいて、こうやって今の川藤ができているということを学び、それぞれ自分たちの地域の文化を調べるような形になっていくと、すごい厚みが出てくると思う。文言はなくとも、中身で郷土を愛するということができるのではないかと思う。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ その通りだと思う。教育現場では、こういった資料を作り教育されていると思うが、それを条例が補佐するような言葉が入っていればと思う。一つの意見ですので、参考にさせていただければ。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財の関係を子どもたちに伝えるということは大事で、3偉人の関係は市内の小学校でパネル展などを行ったが、来年以降、どんなものが良いかと考えている。市内でやっているオビシャ行事など、子どもたちは中々知る機会がない。そういったことを子どもたちに何か発信していけたらと考えている。
池畑委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前文についてだが、絶対あった方が良くと思う。私が吉川に引っ越してきたのは大人になってからで、吉川の教育や文化に触れる機会というのは、自分から関わらなければおそらく無かったと思う。埼玉県民は都内のベッドタウンという人が多く、埼玉を題材にした映画を見ても思ったが、他の地方と比べて埼玉県への愛がドライだが、それが一つの埼玉らしさと感じている。私は小学校の時、宮城の方に住んでいたので地理や歴史は宮城の方が詳しく、埼玉のことは全然わからないが、吉川は好きである。埼玉県民は、自分の住んでいる市町のことは知っているが、埼玉のことは知らない、そういう人が多いと思う。それを「吉川市は江戸（東京）にも近いことから」という表現が絶妙に表していて、東京のベッドタウンということを匂わしている。今後、吉川美南駅東口が開発され、吉川と縁のなかった方々が吉川に越してきて、吉川のことは全然分からない、あるいは親は知らないが、子どもたちは学校で吉川のことを勉強するという時に、こういう前文があれば、吉川は川を推して、東京に近いことで頑張っている、ということが新しく吉川に来た方々にも分かり易いと思う。前文がないと吉川らしさは伝わらないと思うので、あった方が良く思う。

高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・色々ご意見いただき、まずは前文があった方が良いという意見がほとんどのようであるが、ここで決をとりたいと思う。前文ありが良いと思う方は拍手をお願いする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(全員賛成)
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・全員ありということで、委員の総意としたいと思う。 ・その他、ご意見、ご質問あるか。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料のパブリック・コメントの意見で「吉川でどんな芸術活動がされているかホームページに記載されていない」とある。情報の入手の仕方が、高齢者世代と、若い世代では違うということが前提で、ぜひこれは行政にお願いしたいが、色々な層の人たちに、情報を発信できるシステムを構築して欲しい。ここでもし文化芸術基本条例ができたとすれば、広報や市のラックに乗せるだけではなく、もっと根本的に吉川に住んでいる色々な人たちにインフォメーションできるようなシステム作りを考えてもらいたい。小中学校、高校にも吉川にはこんな文化芸術があると周知できるシステム作りを、条例策定と合わせて考えてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまいただいたご意見は条例に限らず、行政全体の課題で、どの世代にも周知できる方法を行政は模索している。それがSNSだったりするが、広報誌一つとっても、若い方は手にとってくれないとか、それぞれのメディアの強みがあるので工夫はしているが、全世代に届くシステムというものがまだ見つかっていない状況である。文化芸術に限らず生涯学習も含む行政の周知方法について、色々な世代に届くような方法は今後もずっと検討が必要と思っているので、改めてそういう意見を頂戴したので、引き続き検討していきたいと思っている。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私も峯委員に賛成で、市民の皆さんが広く文化芸術を理解できるようにして欲しい。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現実的な話をすると、市民文化祭然り、公民館フェスティバル然り、見に来てくれる顔ぶれが一緒になっている。それが年々高年齢化していくだけで、若い人が入ってこない。何年か前に若い方たちと話す機会があったのだが、例えば、美南に住んでいる人たちは、おあしすを知らなかった。公民館を知らなかった。吉川は住み良いまちかもしれないが、5年、10年で急激に人が増えてきているわけだから、その増えてきた人たちに、吉川らしさをいかに伝えて、一緒に育んでいけるかを考えていかないと、二極化が進んでしまうのではと心配している。各サークル、団体が直面している問題として、新しい人たちが入ってきておらず、自分たちの文化芸術を継承していくことがこの先5年、10年とできるかという切実な問題もあるので、ぜひこの基本条例を、その起爆剤、交流

高田委員長	<p>を促進する一手に活用して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私も先月、市役所の特別展覧会で、作品を一週間展示させてもらったが、今まではこういう展覧会には「陶芸協会」とつけて展示していたのだが、今年はふと思い「吉川市陶芸協会」として作品を展示したところ「吉川市に陶芸協会があるのですね」とかそういう方がおり、半分感激、半分がっかり、この先どうしたら良いのだろうという非常に参考になる話を伺った。従来、こういう展覧会というと中央公民館で開催するケースがほとんどだったので、先ほど峯委員からも話があったとおり、来るメンバーはいつも一緒。今回、市役所で開催した成果として、まったく文化芸術に関わらない人が市役所に来て、ちょっと覗いてもらい、吉川市のまったく違う世界を見られたと。文化連盟は加盟団体が680人いるが、毎年少なくなってきており危機感を持っている。条例を良い形で、繋げられたらと思っている。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題かもしれないが、私はお花とお茶をやっているが、もう高齢。若い人が全然入らず、いつ崩壊するかもわからない。この条例をうまく活用して、趣味でも何でもお茶やお花に限らず、若い人に文化芸術を分かってもらえるように、うまく活用していただきたい。
小山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な世代と一緒に育んでいくというのは、まさしく継承ということでもあるし、若い世代の穴が開いているところに繋がると思うが、私は働く世代の位置におり、色々な企画を見ると、子どもと先輩方の企画が多く、働いている世代の、継承したいメインの層に参加させられていない。私は学校の立場で出席しているが、学校の先生はそういう世代で、働き方改革から早く仕事を終えることがあり、勤務終了後に理科室でお花に嗜みのある先生が、他の先生を呼んで生け花教室を月1回開催している。すごく喜ぶ。できたものを自慢して、家に持ち帰っている。働く世代もそういったものに触れてみたいという気持ちはあるが、職場で、職員室から理科室に行く間だったらできるが、公民館に足を運ぶ、土曜日に時間をとるなどは、働く世代には難しい。前文が意気込みを込めたもので、こうした先人たちの歴史・文化芸術を継承するということであれば、その穴の開いた世代のところの企画をしなければ、子どもには引き継げない、子どもは子どもとして受け継ぐしかないのでは、先ほど峯委員がおっしゃったとおり、全世代に通じていくような発信とともに、全世代が触れられるような、今の世の中に受け入れられるような時間の使い方ができる企画、工夫をすることが、前文に規定するような企画になるのではないかと思う。前文に書くならば、そういうことを事務局には頑張ってもらいたい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それらは条例に示している市の役割なので検討していかなければいけないが、働く世代へのアプローチはやはり苦戦している。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私も働いている時は、一回も市民文化祭は見たことないし、フェスティバルにも行ったことがない。文化芸術というのは、突き詰めれば、趣味趣向の世界。好きゆえにその世界にのめりこんでいって、それを自分で会得して、次に伝えていきたい、そういうプロセスを踏むものだが、仕事を持っているうちは、仕事に邁進しているため、文化芸術と言うことが難しいのが現実であり、子どもと高齢者の間の働いている世代の方たちに、いかに文化芸術に目を向けてもらえるか、仕組みづくりが行政の役割だと思う。インフォメーションは個人、各団体でも難しい。市の方に総合的にやってもらうしかない。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、過去に大きな会社に頼まれて、お昼休み等に教えたりしていたが、今はそれが全然なくなってしまった。吉川市役所での経験はないが、他の市役所にはお昼休みに教えに行ったこともある。
小山委員 池畑委員	<ul style="list-style-type: none"> ・職場に入っていくくらいでないと難しいと感じる。 ・公民館は父が合唱サークルに加入していたため行っていたが、今、私はまさに働く世代で、土日は家でゆっくりしたいと思ってしまう。娘が保育園に通っているが、ここ数年、家庭教育学級が中止となってしまっている。コロナが始まる前は、講師の方が保育園に来てくれて、来られるお母さんお父さんは一緒に楽しんでくださいね、という機会があった。それが、日本の性質、前例どおりというか、知っている人にきてもらって、謝礼を渡してと。保護者会も例年どおりにやっておけばいいだろうと。面白みに欠けるので、家庭教育学級や保護者会の機会に、普段働いていてそういうことに携われないお母さんたちが、その場を利用して、うまく関われたらな、と思う。
小山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAでもそういう活動をしているが、例年どおりとなってしまう。役員がきまって3か月で何かやろうとすると、去年はこうでした、と。そこで市の方から豊富なメニューを用意していただき、職場や家庭教育学級などに文化芸術活動が加わればと思う。
末吉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校のPTAの立場でお話させていただくと、家庭教育学級がコロナで開催が難しいということで、今年度はオンラインでやらせてもらった。1回は人権関係で、それ以外はある程度自由が利いたため、役員会で、冬至のかぼちゃ料理を、オンラインの料理教室を提案したが、役員会で承認されなかった。新しいことの提案をして、オンラインということで、これまでと違ったアプローチで食育ということを考えて、冬至の成り立ちとか、鍋を食べるとか、若い世代のお母さんは分かっていなかった方

	<p>も多かったので、それで発信しようとなった時に、今までとあまりにも変わりすぎていたことから同意を得られず、結局、講演会になった。変えようと思っても変えられないことも出てくる。今までのもので、できそうなものを選ぶということではなく、今年しかできないことをやりたい、ということで頑張って企画したが、できなく悔しい思いをした。あまりにもこれまでと違うことは企画立案しにくいということもある。</p>
池畑委員	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学級の意義が保護者に浸透していないから、家庭学級イコール講演会ではないというところを働きかけられたらと思う。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私もかつては家庭教育学級に携わっていたが、イコール講演会という考えはないと思う。それこそ逆に、交流が図れば良い、お楽しみが多いのが家庭教育学級だと思う。年1回は人権関係で他はフリーだった。その辺は、各PTAが会長を中心に、人を集めましょうという考え方に縛られない方が良い。役員さん同士で話し合っ、共通理解をもって進めていくということが重要だと思う。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・条例の話題から、皆さんが抱えている課題が色々出てきて、条例を利用できないか、ということに繋がってきていると思う。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小山委員の考え方が一番身近に感じる。それができれば良いと思う。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川小学校には、ここ2年コロナで行っていないが、10年近く、年に1回茶道教室を開催している。公民館が併設されているので、茶室はある。小学校にはずっと教えに行っている。おそらく子ども体験活動だが、そこには60人くらい来る。上級生が習って、下級生にいただいってもらう。とても喜んでもらっている。そういう目もでてくればと思う。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館でも個人的にお茶を教えている方がいて、個人的な活動も、文化の発展や継承に重要で、条例が後押しできれば良い条例になってくると思う。多くの意見が出たが、最後に、事務局の方で答申の考えかたがあれば。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・答申案に加えて、本日さらに色々な意見をいただいたところだが、今日が今年度最後の会議となるため、今日の意見も踏まえた答申を、最後に委員長と調整させていただき、教育委員会に提出ということで良いか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(全員賛成)
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的な調整は私と事務局で行い、教育委員会に答申とする。それでは議事を終了とする。
	<p>4 その他 今回は令和4年7月頃を予定</p>

5 閉会

副委員長よりあいさつ

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年3月14日

署名委員 郭 育子（自署）

署名委員 富田 泰行（自署）